TEAM .4

43年ぶり2度目の優勝をつかむ　一関学院体操部

左から沼倉沙織さん（2年）、阿部紗南さん（2年）、新坂玲奈さん（1年）

佐藤 功さん
Sato Isao

体操部顧問・66歳

前回優勝したのは、昭和47年。私が同校に赴任した年でした。43年の時を経てつかんだ、今回の優勝は感無量。インターハイでは、予選通過を目標に、万全の体調で精いっぱいの演技をしてほしいです。

1_ふわり、鮮やかに宙を舞う選手たち／2_歴史が刻まれた真紅の優勝旗／3_本戦に向けて磨く心と技

床、平均台、跳馬、段違い平行棒。体操競技は4種目を演技し、上位3人の合計点を競う。今年度、新たに新坂が入部したことで念願の県大会団体戦に出場することができた。ミスはあったものの、三人がそれぞれの持ち味を生かし、43年ぶりの優勝。三人に歓喜の表情があふれた。「両親、監督やコーチの支えに感謝している」と阿部は笑う。三人は7月31日から大阪府で開かれるインターハイに出場。目標は自分たちができる最高の演技をやり通すことだ。

TEAM .5

涌津スポーツ少年団

TEAM .6

黄海スパーキッズ

涌津が念願の初優勝。準優勝の黄海とともに全国へ

6月に行われた予選大会の決勝は、花泉町の涌津スポ少と藤沢町の黄海スパーキッズとの戦い。涌津スポ少は4対2で勝利し、初の栄冠を勝ち取った。2チームはともに7月31日から富山県で開かれるソフトボールの全国大会に出場する。

涌津スポ少の佐藤優主将（6年）は「まずは1勝を目指して頑張りたい」と活躍を誓う。千葉祐哉監督は「一つでも多く、グラウンドでプレーしたい」と願った。

3月に県代表として春季小学生選抜大会（三重県）でベスト16に入った黄海スパーキッズの千葉彩音主将（6年）は「みんなで力を合わせて春の全国大会の成績を上回りたい」と話す。須藤悦監督は「地域の皆さんに感謝しながら、足を使った機動力と守りで勝ち上がりたい」と意気込んだ。

TEAM .7

9年ぶり4度目の優勝で全国へ　一関工業弓道部

左から池田和貴君（2年）、遠藤尚輝君（3年）、加藤秀和君（2年）、亀井夏寿希君（2年）、宮本翔太君（3年）

本望智英さん
Honmo Tomohide

弓道部顧問

体幹の構築は弓道でも重要。走り込みで下半身を鍛え、ブレない心と体を作ります。弓道は的中率だけでなく、立ち振る舞いも審査されます。素直な気持ちで、きれいな射形を描くことを徹底しています。

三浦明伽くん
Miura Asuka

一関工業・（2年）

中ようと気負わず、平常心で矢を放つ。これが難しい。気が早ることを早気といいます。気持ちのコントロールは上級者でも難しい。体調を整え、積み上げた練習を信じて試合にのぞみます。

背筋を伸ばし、力を込めて弦を引く。目線の先には直径36センチの的。その距離28メートル。

小指の爪ほどに見える的。呼吸を整え、射手の思いが放たれる。

弓道は、一般に的に中るか中らないか、その的中率を競う。しかし、県高校総体弓道で団体戦を制した一関工業は、的中率を重視しない。むしろ、一定のリズムを保ち、丁寧な動作に意識を注いでいる。

9年ぶり、4度目の優勝は、勝負どころで平常心を失わない強さがもたらした。

熱いドラマが動き出す　駆け上がれ 真夏の頂点

選手たちは、日頃の練習のほか、あいさつの徹底や体調管理など、日常生活の気配りを忘れない。

また、指導者や保護者への感謝の気持ちを大切にしている。技術を習得することはもちろん、挑む姿勢も妥協はない。

部活動に打ち込む多くの人が憧れる全国のひのき舞台。そこには、これまで感じたことのない熱気や感動が待っている。

出場する選手が、夢をかなえた舞台で、ベストを尽くせ、一関勢―。

西城 和廣さん
Saijyo Kazuhiro

スポーツ振興課長

毎年、多くの児童や生徒が、県代表として全国大会などに出場。活躍する姿は、市民の誇りであり、励みです。市は、スポーツ教室などジュニア選手を育成。スポーツを楽しむ環境を整えるため、施設の整備・充実に努めます。